

デジタルトランスフォーメーションを支える IIC

株式会社 IHI
常務執行役員
高度情報マネジメント統括本部長

小宮 義則
Komiya Yoshinori



IIC の皆さま、「IIC REVIEW」第 64 号の発刊、誠におめでとうございます。64 回を重ねる歴史ある本書で、巻頭のご挨拶を寄せさせていただくことを、大変うれしく思います。

私は、本年 4 月に IIC の主管部門である高度情報マネジメント統括本部（略称：高マネ統括）の本部長に就任致しました。現在、世界的に第四次産業革命が進行し、ICT や IoT/AI などのデジタル技術は社会の発展の中核となっています。このような世の中の急速な変化の中で、IHI グループの各事業領域においても、デジタル技術を活用した変革「デジタルトランスフォーメーション（DX）」が「待たなし」の状況です。

昨年度、IHI グループでは、中期経営計画「グループ経営方針 2019」を策定しましたが、この中で重要な柱の一つが「ライフサイクルビジネス」です。これまでは、ハードウェア製品を供給することで社会やお客さまに価値を提供することが、IHI グループのビジネスの中心でしたが、今後は、お客さまの事業活動のライフサイクル全体を支え

るためには、IoT/AI といったデジタル技術を駆使して製品を納めた後のアフターマーケット事業を強化し加速していく必要があります。まさに「モノ売り」から「コト売り」への転換であり、DX そのものに他なりません。

また、今年度に入り、コロナ禍により人々の移動に伴う感染リスクが社会問題となってきました。感染リスクを避ける必要性により、社会全体や個々の企業の DX のスピードは間違いなく大きく上がっています。ご案内のように IHI グループも含め各企業は、デジタル技術を活用しつつオフィスワークにおける在宅勤務を大きく増やしているところですが、今後は工場や建設現場においてもデジタル技術を駆使した省人化が進むことが考えられます。したがって、先ほどのライフサイクルビジネスとも相まって、IoT/AI の必要性が一層高まっていくことでしょう。

このような状況の中で、IIC の皆さまは、製品の状態を把握するためのセンシングの技術、各種構造物のひずみ・応力・振動・温度等を対象とし

た計測技術、お客さまや IHI グループ内の工場・建設現場で活用される非破壊検査技術、製品の稼働状況に応じコントロールを行う制御技術など、最先端の技術の活用に高マネ統括や IHI グループの各事業領域と共に取り組んできました。これらの技術は、まさに IoT や AI/ データ分析の中核となるものであり、重要性はますます増していきます。

IHI グループがコロナ禍の下で生き残り、競争力のある企業として成長していくためには、グループ全体の DX を強力に推進することが不可欠です。今後、IIC の持つ技術が IHI グループの DX を支え、業務改革と事業改革をリードすることを願ってやみません。皆さまの活躍に大きく期待しております。